

現代に生かす力を養う漢文

太田亨

漢文は日本の言葉と文字に多大な影響を与えながら、その作品は長い歴史を通じて読み継がれ、「日本の古典」として重視されています。しかし、敬して遠ざけられつつあるのが現状です。こうした中、伝統的な言語文化に重きを置き、古典としての漢文に親しむことが望まれています。高校生が少しでも漢文に振り向き、古人のものの考え方・見方を楽しんでほしいとの思いで教材は選ばれています。

故事成語では「塞翁が馬」「朝三暮四」「杞憂」を取りあげています。これらの熟語は現在でも日常的に使われます。二千年以上も前に成立した熟語が今もって使われるのはなぜでしょうか。言葉の背後に潜む人間が生きる上での大切な智慧を味わって下さい。その智慧こそが長く生き続けてきた理由であり、今日も我々が共感しうる源泉なのです。

思想では、『論語』より孔子の生き方について述べられた章を、『老子』『莊子』よりその特徴を示す章を取りあげています。漢文の授業で、とかく孔子を神聖化する傾向がありますが、孔子も人間です。理想の政治を追い求めながらも、それらは叶うことなく、多くの挫折を味わいました。よく知られた章ですので、人間くさい孔子を味わってください。孔子の思想と対をなす老莊思想の教材は、物事を考える時には決して一方向からでなく、あらゆる角度から見

ることの大切さを教えてくれるはずです。

漢詩では、盛唐を代表する王維・李白・孟浩然・杜甫の近体詩を取りあげています。超俗の世界を詠む「竹里館」、月に後ろ髪を引かれつつ故郷からの旅立ちを詠む「峨眉山月の歌」、隠者の生活への憧れを詠む「洞庭に臨む」、自然の雄大さと自己の卑小を詠む「登高」と、それぞれ限られた字に凝縮された作者の思いを味わってください。いずれの詩にも高校生が経験したことのない世界が秘められています。

史伝では、日本で最も親しまれている『三国志』を取りあげています。「三顧の礼」は今でもよく使われる熟語です。劉備と孔明とはどのような出会いだったのでしょうか。時代背景と二人の心情の駆け引きを読み取って下さい。きっとこれ以降の二人の活躍が気になるはずです。学習後に生徒がさまざまな媒体で『三国志』の世界に飛び込むことを期待しています。

故事成語・思想・漢詩のコラムは、高校生にとって身近な話題で共感できる内容となっています。漢文に親しむための契機として利用して下さい。

『古典A』の漢文は、以上のような構成になっています。いずれも高校生にとって振り向きやすい作品です。日本で長い間親しまれた作品だけに、作品の内容を突きつめていくと、漢文独特のものの見方・考え方を味わうことができます。「温故知新」、教材から得た見方・考え方は、きっとこれからの生き方にも活かされるはずです。

(おおたとおる・愛媛大学)